

谷山の盆綱引き

谷山地区で8月15日の夜に、盆綱引きが行われます。江戸時代から続いているといわれるお盆の行事です。

盆綱を編む

15日の朝に盆綱が谷山の八幡宮境内で編まれます。綱は昭和20年代以前は山からカズラをとってきて編んでいたそうです。20年代以降は稲藁を使って編まれます。むかし稲は鎌で刈っていました。農家に稲を保管してもらい盆が近づくと、子供達がそれを集めて、足踏み脱穀機を使って梳き、手で握られるほどの束にして、水につけて編みやすくします。現在は子供達の数も少なくなり、大人達が行っています。稲もコンバインで刈り取るため、別に盆綱用に鎌で刈りとり、保管しています。

大人達は縄を二つによりあわせて一本にして芯をつくり、それを境内にある二又の大きな樹にかけて編みます。綱は左^{ひだりない}綱で3本をねじり合わせていきます。

3人がかけ声をかけながら編みすすみます。二又樹から鳥居のところまで、約50メートル（年によって長さが異なる）の綱が4時間かけて編まれてできあがります。

出来あがった綱を谷山の人達で、集落を通っている道端に置き綱引きの準備ができあがりました。

現在、綱は軽トラックで引っぱって運んでいます。



▲ 八幡宮



▲ 谷山地区



▲ 綱をなっているところ

盆綱引き

各家庭で先祖送りが終わって薄暗くなり始めるころ、照明の準備が行われます。8時近くになると、「トンコトントン、トンコトントン」とふれ太鼓がうち鳴らされ、盆綱引きの時間が近づいてきたことを知らせます。

家々から子どもや大人たちが集まってきます。上半身はだかになった青年団も出てきます。綱が道の中央に置かれ、赤の布きれが結ばれ、赤い布をはさんで、山の手側に住民や子供達が、海側に青年団とに分かれます。区長の打ち鳴らす太鼓の合図で、盆綱引きがはじまります。ヨイショ、ヨイショのかけ声で綱を引き合い、狭い道路は熱気に包まれます。

一回目は青年団が勝ち、2回目になりますと一段と声も高まり「がぶれ、がぶれ」という声も出て、綱は大きく左右にゆれ、横の扉にぶつかることもあります。青年団の数人が山手側につき、ここで山手側が勝ちます。3回目も山手側が勝ち、盆綱引きは山手側が勝って、今年の豊作が約束されました。

この盆綱引きは、無病息災、子供達が綱にさわると元気に育つとか、この綱で先祖の霊が帰るともいわれます。しかし一番大事なことは豊穡祈願でしょう。

昔は宗像や粕屋市郡で盆綱引きが行われていましたが、現在では古賀市谷山地区と宗像市曲^{まがり}で行われているにすぎません。

宗像市で行われているのは、綱を引き合うのではなく、子供達が綱を引いてまわるものです。8月15日の昼ごろに、集落内を綱を引いて回り、集落の広場で、土俵をつくり、そこで相撲をとります。この綱はナーガと呼ばれていますから、綱蛇体観といい蛇や龍という信仰が背景にあります。



▲ 綱引きを待つ



▲ 綱引きの様子



◀ 綱引きが
終わって